

# INTERVIEW

深浦町国民健康保険深浦診療所 所長  
吉岡秀樹先生



## 青森県内のネットワークで 継続性のある地域医療を

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

### 厳しい青森県の地域医療

山田隆司(聞き手) 今日は、青森県の津軽半島の深浦診療所に、吉岡秀樹先生をお訪ねしました。先生とは支部会でお会いするくらいでしたが、青森県の中でも厳しいこの深浦町に先生があえて赴任され地域を守っていらっしゃるを知り、現地へ赴いてお話を伺いたいと考えました。

まず、先生のこれまでのご経歴を簡単に教えてくださいいただけますか。

吉岡秀樹 私は、1992年に自治医科大学を卒業しました。15期の卒業です。青森県は、県立中央病院で研修をしますのです、そこで2年間、初期研修をしました。当時、地方にはまだ台湾出身の先生などが結構大勢いらっしゃったので、3年

目には自治医大の卒業生が交代するような感じで各地域に散らばっていました。私は、病院が新しくなったばかりの一部事務組合下北医療センター国保大間病院に派遣されました。当時は外科系総合医と内科系総合医のどちらかを選ぶことになっていて、私は外科系総合医として派遣され、午前中は内科外来、午後は手術や大腸の検査などをしていました。

山田 大間病院は自治医大の先輩が多く行っていますよね。

吉岡 はい。今明秀先生、中林孝先生、野田頭達也先生、私、という感じで、外科系は代々救急系で継いでいました。私のあとが丸山博行先生

ですね。

**山田** バリバリの地域医療の先生方がいらっしやっただのですね。確かに、大間病院は地域医療の軸ができるようなところがありますね。

**吉岡** 翌年、国保佐井診療所の所長として赴任しました。そこには2年間いて、県立中央病院に戻りました。県立中央病院に1年いたあとはまた大間病院に外科医長として戻り、県中と下北とを行ったり来たりで、下北で7年間働きました。

途中、2000年から4年間、弘前大学麻酔科集中治療科に社会人枠で入学しました。3年間は土日に行って、研究して、帰って来るという感じで、大間からは片道4～5時間かかり大変でしたが、最後の1年間は後期研修として行かせてもらいました。

2002年に大間病院の副院長になったのですが、2003年には国保大畑病院の院長として赴任

することになりました。というのは、大畑病院は60床を内科医2人、外科医2人でやっていた病院だったのですが、年度の途中で弘前大学の先生が引き上げて、医者がいなくなりました。それで県から自治医大に何とかしてほしいと話があったのです。

**山田** 弘前大学は全部引き上げてしまったのですか？

**吉岡** そうなんです。

**山田** で、1人で行ったのですか？

**吉岡** はい。病床は30床くらいまで減らして、外来、検査、入院と、1人でやっていました。ちょっときつかったですね。年度途中だったので8ヵ月頑張って、そのあとは自治医大の卒業生が派遣されました。

**山田** それで義務年限が明けたわけですね。酷い義務年限明けでしたね(笑)。

## 海外の日本国大使館の医務官を歴任

**山田** 義務が明けた後はどうされたのですか。

**吉岡** 青森県立中央病院が救命救急センターを立ち上げるといって、入職しました。2年後に自治医大から人事交流でモンゴルへ行かないかという話があり、自治医大の地域医療学教室に所属した形で外務省に出向し、在モンゴル日本国大使館に外務技官医療職として赴任しました。

**山田** 大使館の医師というのはどういうことをするのですか。

**吉岡** 原則として、大使館の日本人職員と現地の日本人の健康管理が中心です。

モンゴルには2年間いて、帰国して県中に戻って2年いた後、次は在ナイジェリア日本国大使館に3年、在ウクライナ日本国大使館に3年、在ネパール日本国大使館に2年行きました。

**山田** そういった経歴が長かったのですね。

**吉岡** そうですね。大使館の中にはクリニックがあって、顕微鏡も超音波も末梢血・生化学検査もできるし、小手術もできる。医者は1人しかなくて看護師もいないので、全部1人でやらなければいけないのですが、現地の変った感染症があったり、その予防接種もしなくてはいけなかったり、そういう意味ではプライマリ・